

電子版センターだより

Gunma Prefectural Education Center
群馬県総合教育センター



- No.24 -

令和2年2月28日(金)配信

< 掲載内容 >

	頁
1 ぐんま教育フェスタの紹介～ 新たな時代の幕開け 未来を拓く学びの提案 ～	1
2 第17回ぐんま教育賞 入賞者の紹介	5
3 令和2年度研修講座の変更点について	6
4 教育の情報化推進に向けて	7
5 障害者スポーツの紹介	8
6 「保育アドバイザー派遣」について	9
7 自立支援アドバイザーの取組	10
8 総合教育センターへ来所される方へ	11

* 編集後記 *

ぐんま教育フェスタの紹介

～ 新たな時代の幕開け 未来を拓く学びの提案 ～

令和2年2月1日(土) 学校関係者及び一般県民を対象に「ぐんま教育フェスタ」を開催しました。今年度は「新たな時代の幕開け 未来を拓く学びの提案」を掲げ、研修員による研究発表・研究概要展示、特別講演、参加者体験等の催しを行いました。教育フェスタ当日の様子を紹介します。

1 オープニング・ぐんま教育賞表彰式



オープニング

オープニングは、群馬県教育委員会教育長、群馬県議会文教警察常任委員会委員、群馬県議会議員、ぐんま教育賞選考委員をはじめ、多くの皆様をお迎えし、盛大に行うことができました。

また、オープニング終了後、「第17回ぐんま教育賞表彰式」を行いました。「杉の子賞」を5名の教職員が受賞されました。

2 特別講演

演題「真の国際人を育てるために」

講師 ピーター・フランク 氏



特別講演

特別講演は、12カ国語を話し、110カ国以上の国々を巡っているピーター・フランク氏のご講演でした。

真の国際人を育てるには、英語等の語学を学ばせればよいということではなく、異質なものに対する寛容の心を養うことで、肌の色、言語、食事、文化、生活等全く違う相手をいかに受け入れるかということをお話いただきました。

～参加者の声～

- ・真の国際人について捉え直し、今後の教育に生かしていこうと思いました。
- ・楽しい雰囲気でした。ユーモアの中に大事な言葉があってよかったです。
- ・すてきな言葉をたくさんいただきました。今後の仕事に生かしていきたいです。
- ・とても分かりやすい内容であったという間に時間が経ってしまったようでした。

3 研究発表・研究概要展示

長期研修員、長期社会体験研修員の研究発表と、特別研修員の研究概要展示を行いました。



長期研修員の研究発表



長期研修員の研究発表



長期研修員の研究発表



長期社会体験研修員の研究発表



長期社会体験研修員の研究発表



特別研修員の研究概要展示

～参加者の声～

- ・研究内容が興味深く、Webページに載るのが楽しみです。
- ・発表の内容、方法等、大変工夫されていてよかったと思います。
- ・長期研修員の発表、とても参考になりました。自分の実践にも生かしていきたいです。
- ・実践した方に直接質問をすることができ、貴重な経験になりました。

4 参加者体験・展示

【特別支援学校の作業学習製品展示・販売】



作業学習製品展示・販売コーナー

特別支援学校5校が参加し、生徒による作業学習製品の展示・販売を行いました。ハーバリウム、野菜、花の苗、布製品、陶芸品、木工品など、様々な製品を多くの来場者に購入していただきました。

【障害者スポーツの紹介・プチ体験】



「車いすバスケットボール」プチ体験コーナー

県内の学校で行われている障害者スポーツの理解・啓発に関する取組について紹介しました。また、東京パラリンピックで実施される競技の中から「ボッチャ」「ゴールボール」「車いすバスケットボール」のプチ体験コーナーを設けました。

【専門高校による「そば打ち体験】



そば打ち体験コーナー

そば打ち名人の高校生たちの指導の下、来場した方々がそば打ち体験をしました。高校生の高い技術と手際よさに、体験をする人やギャラリーから感嘆の声が上がりました。

【「スポーツするえほん」の世界】



「スポーツするえほん」展示コーナー

「スポーツするえほん」の世界をテーマに、県立図書館から借用した絵本など約150冊を展示して紹介しました。講演・ワークショップでは、講師の福地豊樹先生から、絵本を通したスポーツの見方等のお話をいただきました。

【小学校プログラミング教育の教材体験】



プログラミング体験コーナー

長期研修員が作成した教材を、参観者に使用していただきました。国語科、算数科、理科、図画工作科のプログラミングの体験を通して、低・中・高学年で行う授業のイメージをつかんでいただきました。

【最新ICTガジェット(VR)の体験】



VR体験コーナー

VR体験コーナーでは、VR用ゴーグルを用いたバーチャルリアリティのコンテンツや手のジェスチャーによるコンピュータの操作、トイドローンの操縦等も用意し、来場者の皆様に楽しい時間をお過ごしいただきました。

その他にも、在外教育施設の紹介及び相談会、「統計グラフ群馬コンクール」作品展示、「校旗を作ろうプロジェクト」展示等を行いました。



帰国教員による在外教育施設の紹介



校旗の展示



統計グラフ作品展示

～参加者の声～

- ・ICTの展示など体験できるコーナーがあることが良かったです。
- ・「スポーツするえほん」はとても良かったです。
- ・プログラミングなど、最新の情報を得られました。

今年度も、これからの教育に必要な情報を得られるような内容を目指すとともに、県内の教育に関わる多様な取組に触れていただけるようなプログラムを盛り込みました。当日は、774名の来場者を迎え、ぐんまの教育の在り方について考えるよい機会となりました。今後もぐんまの教育について、魅力のある情報の発信を目指していきます。

第 17 回 ぐんま教育賞 入賞者の紹介

本年度は「杉の子賞(教職員の部)」27編の中から、最優秀賞1編及び優秀賞3編を決定しました。最優秀作品の概要と優秀作品3編について紹介します。

最優秀賞

思考力・判断力・表現力を育成する農業土木教育の取組

- 反転学習を活用した授業実践から -

小池 英吾(県立勢多農林高等学校)

概 要

本校緑地土木科では農業土木教育を通じて将来のスペシャリストを育成している。本研究では、科目「農業土木設計」において生徒が自宅等で視聴できる動画教材を開発し、動画視聴による予習と、学校での協働学習による反転学習を実践した。その結果、生徒に変容が見られたことから、反転学習は「思考力・判断力・表現力」を育成する有効な学習方法の一つであることが分かった。



表彰式の様子

優秀賞

全教職員による組織的な食育指導を目指して 栄養教諭の校内研修への参画を通して

森田あずさ(吉岡町立明治小学校)
井堀 尊義(")

互いを認め合い、よりよい生き方を追求する生徒の育成 「考え、議論する道徳」の授業づくりを通して

高島 広平(館林市立多々良中学校)

外国語活動において相手意識をもってコミュニケーションを図ろうとする児童の育成 自分で選んだコミュニケーションのポイントを用いて

根岸 愛美(富岡市立富岡小学校)

入賞作品の詳細は、当センター、ぐんま教育賞Webページにて主題及び作品全文を公開します。御覧ください。

【 ぐんま教育賞Webページ http://www.nc.center.gsn.ed.jp/?page_id=183 】

令和2年度研修講座の変更点について

当センターでは、「群馬県教員育成指標」を踏まえ、国や県の動向、今日的な教育課題に対応した研修を実施するとともに、資質能力や指導力の向上、多忙化解消や業務の適正化への対応に向けて改善を図っています。

令和2年度は、主に次のような変更等を行います。

1 基幹研修

(1) 対象変更に伴う研修の休止及び再開 本変更については平成30年度に示しています。

対象	変更内容
5年目経験者研修 (小・中、特、養護のみ)	令和3年度開始の「6年目経験者研修」へ移行します。 (2年度は移行期間のため、研修を実施しません)
中堅学校栄養職員資質向上研修	受講対象を10、11年目とし、令和2年度に研修を再開します。 (昨年度及び今年度は、移行期間のため実施しませんでした)

(2) 研修日数の変更

対象	変更内容
初任者研修(小・中、高、特) 県立学校新規採用実習教員研修 小・中学校2年目経験者研修 小・中学校4年目経験者研修	令和2年度より、実施日数を1日減じて、研修内容を整理・精選して行います。

(3) 宿泊研修の変更

「初任者研修(小・中、高校、特)」「新規採用教員研修(幼、養護、県立実習)」の宿泊研修の変更を行います。詳細については各研修講座の実施要項を御確認ください。

2 指定研修

対象	変更内容
体育・保健体育科研修	令和2年度から希望研修へ移行します。
特別支援学校専門アドバイザー等研修	県特別支援教育課主管の専門アドバイザー研修と統合します。

3 希望研修・公開講座

(1) 新規開設

- 「はばたく群馬の指導プラン 研修講座」
- 「情報モラル研修講座」
- 「学校経営ステップアップ研修講座」等の12講座

(2) サテライト研修の実施 当センターに加えて他会場でも実施します。

- 「道徳科授業づくり研修講座」
- 「小学校プログラミング教育研修講座」
- 「いじめ・不登校等問題対策研修講座」等の6講座

詳細は、当センター発行「令和2年度研修講座案内」及びWebサイトを御覧ください。
(研修講座案内発行及びWebサイト掲載は、3月中旬を予定しています。)

教育の情報化推進に向けて

学習指導要領の改訂に伴い、児童生徒の情報活用能力の育成を図るために、教員のICT活用指導力の向上が急務となっています。当センターでは、先生方のICT活用指導力の向上のため、次のような研修講座を企画しています。

ICT活用指導力向上研修講座

ICT活用について、先生方のスキルや活用方法に応じて、来年度は、6コースを実施いたします。教材作成、校務、動画教材の3コースは初心者の方も安心して参加できる内容になっています。

主な内容	
<教材作成スキルアップコース（初心者向け）> プレゼンテーションソフト、文書処理ソフト、表計算ソフトを活用したICT教材の基本的な作成方法を学びます。	
<校務におけるICT活用コース（初心者向け）> 校務の効率化を図るための表計算ソフトや文書処理ソフトの利用方法について学びます。	
<動画教材作成コース> プレゼンテーションソフトやiPadを利用した、動画教材の作成方法を学びます。	
<ICT活用実践コース（中級者向け）1 義務教育> <ICT活用実践コース（中級者向け）2 高等学校教育> 教育の情報化の意義と授業における効果的なICT活用、様々なICT機器の活用方法について学びます。	
<クラウドサービス活用コース> 「G Suite for Education」の基本的な活用方法、授業における効果的な活用方法について学びます。	

共通教科情報研修講座

高等学校における、共通教科情報（科目「情報」）の指導力向上を図り、情報科で身に付けるべき資質・能力の育成を目的とした授業づくりに必要な知識・技能を習得する内容です。

主な内容	
<プログラミング教育の実践事例（神奈川県の実践）> プログラミング教育の効果的な指導方法について学びます。	
<「情報」教員研修用教材を活用した効果的な指導> 「情報」教員研修用教材の活用方法について学びます。	
<ネットワークの仕組みと無線LAN環境の構築> 無線LANの環境の構築を通して、情報通信ネットワークの仕組みについて学びます。	
<コミュニケーションと情報デザイン - 情報デザインの効果的な指導 - > 情報デザインの考え方や指導方法について学びます。	

日程等の詳細は、講座案内（3月中旬に発行予定）及び当センターのWebサイトを御覧ください。

障害者スポーツの紹介

世界中から障害のある選手たちが集い、圧倒的なパフォーマンスを目にすることができる2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会は、共生社会の実現に向けて「心のバリアフリー」の教育を展開する絶好のチャンスになります。そこで、今回はパラリンピック競技の中で、県内学校等で親しまれている競技を三つ紹介します。

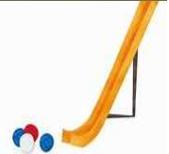
1 ボッチャ

ボッチャは、赤・青それぞれ6玉のボールを投げたり転がしたり、他のボールに当てたりして、目標となる白いボール（ジャックボール）にいかに近付けるかを競うものです。障害によりボールを投げるのが難しくても、勾配具（ランプ）を使い、アシスタントに自分の意思を伝えることができれば、競技を楽しむことができます。県内の肢体不自由特別支援学校では体育に取り入れています。

右の写真は、ボッチャを体験している様子です。体験者は、「ルールが分かりやすく誰でも楽しめそうだ」と話していました。



【勾配具(ランプ)】



2 ゴールボール

ゴールボールは、アイシェードを着けて3人対3人でプレーします。鈴の入ったボールを転がし、ゴールに入ったら得点が得られる競技です。

コートラインの下には、たこ糸を通してあり、手で触ることでラインが分かるようになっています。ボールをパスするときには、選手同士で声を掛け合って、ボールを渡します。鈴の音でボールの場所を捉えるため、観客が相手チームに不利になる音を立てるとペナルティになります。右の写真は、アイシェードを着け、ボールを触る体験をしている様子です。体験者は、「思ったよりボールが重い」「鈴の音をよく聞いていることが大切だ」と話していました。盲学校などで親しまれています。



【アイシェード】

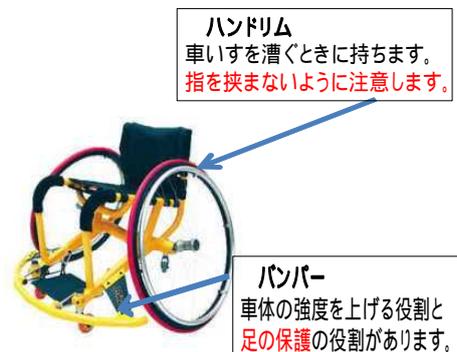


3 車いすバスケットボール

ボールの大きさやコートサイズ、ゴールの高さなど、基本的なルールはバスケットボール競技とほぼ同じです。

右図は車いすバスケットボール用の車いすです。ブレーキがないので、タイヤを手で止めます。ダッシュ、ストップ、ターンなど、全て自分の手で車いすを操作して行きます。相手とぶつかることもあるので、バンパーが付いています。

車いすで走るスピードを感じたり、美しい放射線を描くシュートを打ったりできるなど、魅力があり人気のスポーツです。



ハンドリム
車いすを漕ぐときに持ちます。
指を挟まないように注意します。

バンパー
車体の強度を上げる役割と
足の保護の役割があります。

その他、音の出るボールを使う競技には、ブラインドサッカー、車いすを使う競技には、テニスや陸上競技などがあります。障害者スポーツに関する理解・啓発を通して、障害のある方とコミュニケーションをとる際に、知っておきたい知識や心のもち方について学ぶ機会をもちましょう。そして、様々な特性や考え方をもちつたすべての人が相互に理解し支え合えるバリアフリーを推進していきましょう。

「保育アドバイザー派遣」について



幼児教育センターでは、幼児期の教育や家庭教育の充実を目指し、保育所、認定こども園、幼稚園、学校、公民館等で行う講演会や研修会、保護者会に、経験・知識ともに豊富な保育や教育の専門家である「保育アドバイザー」を講師として派遣しています。

「保育改善のヒントがほしい」「子育てについて保護者に分かりやすく伝えてほしい」「合同の研修会を開きたい」等、内容や方法など相談の上、皆様の要望にお応えしています。

今年度は、100件を超える依頼がありました。実績の一部を掲載しますので参考にいただき、来年度の活用を御検討ください。皆様からのお申し込みをお待ちしています。

- 園内研修・校内研修
- 講演会・各種研修会
- 保護者会・親子行事
- 子育ての支援者の研修など



原則、年間1回は無料で派遣できます。

1 令和元年度の保育アドバイザー派遣の主なテーマ

保育所、認定こども園、幼稚園、子育て支援団体

保護者・親子向け

- ・子育ての楽しみ方 ～絵本を通して～
- ・見守る、待つ、ほめる ～子供の育ちに必要なこと～
- ・子供の生活リズムと発達
- ・子供の事故やケガの防止と応急手当について
- ・たくましい心と身体を作るために
- ・親子で楽しむ手遊び、リズム遊び
- ・乳幼児の発達とふれあい遊び
- ・親子で楽しく身体を動かそう

教職員向け

- ・遊びを中心とした幼児教育
- ・指導案の書き方
- ・幼児期の教育と小学校教育との連携・接続について
- ・特別な支援を要する幼児への対応
- ・子供の理解と個に応じた指導の工夫
- ・絵本を通して広がる遊び
- ・今日の遊びを明日につなげるために
- ・保護者対応について

学校

保護者・親子向け

- ・就学時検診時の「子育て講話」
- ・入学に向けて「保護者の役割」
- ・小学校生活のスタートに当たって
- ・就学までに身に付けたい力
- ・就学に向けた親としての心の準備
- ・「早寝」「早起き」どっちが先？

2 保育アドバイザー派遣の申込みについて

申込方法

相談書提出：希望の日時や内容、講師などを電話で相談、又は相談書を提出

派遣依頼書提出：講師決定後、派遣依頼書を提出

実施報告書提出：派遣終了後、実施報告書を1週間以内に提出

詳しくは、幼児教育センターのWebページを御覧ください。

【 http://www.nc.center.gsn.ed.jp/?page_id=74 】

自立支援アドバイザーの取組

当センターでは、「いじめ対策・不登校支援等推進事業（文部科学省）」として、県教育委員会義務教育課や各教育事務所、市町村教育委員会と連携しながら県内の不登校対策に取り組んでいます。具体的には、当該市町村に配置される「配置型自立支援アドバイザー」と当センターに配置される「派遣型自立支援アドバイザー」が、適応指導教室や学校のニーズに応じて、児童生徒の多様な課題の解決に向けた支援を行っています。

当センターに配置された「派遣型の自立支援アドバイザー」は、県内各市町村教育委員会等から派遣依頼があった場合に、適応指導教室や学校に訪問して支援を行っています。その活動状況について、紹介します。

「派遣型自立支援アドバイザー」の活動

当センターに配置された2名の派遣型自立支援アドバイザーは、公認心理師、社会福祉士の有資格者であり、福祉的な視点から適応指導教室が抱える様々な課題解決に向けた支援を行いました。業務内容については、以下のようなものがあります。

- ・ 適応指導教室に通室する児童生徒や保護者との面談
- ・ 適応指導教室等における対応困難な事案に対しての助言
- ・ ケース会議でのアセスメント
（様々な情報を基に総合的・多面的に判断し、見立てを行うこと）
- ・ 指導員、相談員の資質向上のための講義
- ・ 適応指導教室運営に関する情報提供
- ・ 子ども教育相談室における研修 等

適応指導教室では

通室する児童生徒の活動の様子を参観したり、活動と一緒に参加したりして、行動観察を行うことで、指導員が抱える指導上の悩みの解消に向けた具体的な提案を行い、よりよい支援につなげることができました。また、通室する児童生徒の保護者との面談では、保護者の抱えている困り感に寄り添いながら、現状の確認をし、保護者の意向を聞き取り、今後の対応策を一緒に考えたりアドバイスをしたりしました。長期的な視野から計画的、継続的な面談を行うことで、保護者との信頼関係を築くことができ、児童生徒への具体的で有効性のある支援につなげることができました。

また、学校と適応指導教室が連携して、不登校の児童生徒への対応ができるように支援を行いました。具体的な支援としては、関係機関が参加するケース会議において、必要な情報を集め、判断し、それぞれの立場でできることは何かを具体的に話し合い、実践につなげられるようにしました。

子ども教育相談室では

様々な事情や課題を抱える相談者に対応する相談員の資質向上のため、相談者の抱える悩みの理解の仕方や相談対応の在り方についての研修会を実施しました。課題を解決したいという相談者に対して、ニーズに適した外部機関につなげられるようにすることなど、具体的な対応策を学ぶことができました。相談機関としてできることを再確認することができ、今後の実践に生かせるものとなりました。

総合教育センター駐車場について

講堂棟 1 階部分は、伊勢崎合同庁舎（伊勢崎行政県税事務所・伊勢崎地区農業指導センター）が、業務を行っています。

当センターの駐車場をご利用される際は、下記のとおり駐車をお願いいたします。
御理解、御協力をお願いいたします。



* 編集後記 *

「電子版センターだより」24号をお届けします。

過日、当センターで開催いたしました令和元年度ぐんま教育フェスタに、県内外から多くの皆様に御来場いただき、ありがとうございました。教育研修員発表では各会場から熱の込めた意見交流が行われました。また、参加者体験の各会場も盛況で、プログラミング教育や障害者スポーツの体験等、新たな時代の幕開けにふさわしい内容となりました。

来年度、小学校では新学習指導要領の本格実施となります。明るい未来を担う子供たちの確かな学力、豊かな人間性、健やかな体の育成に役立つよう、また、先生方の実践に役立つ内容が提案できるよう、当センターの研修内容をますます充実させていきます。

令和2年度もよろしくお願いいたします。

(文：K.C)